

＜青雲丸機関室機器名称及び役割一覧＞

図面番号	名称及び役割
L1	機関操作卓 (Engine Control Console) 主機及び関連機器並びに主要機器を遠隔操作するために必要な操作機構及び監視、警報装置を備える。
L2	主配電盤 (Main Switch Board) 主発電機で発生した電気を船内の給電盤や変圧器に給電するために、回路の開閉操作や監視、制御及び保護を行う。同期盤、発電機盤、給電盤から構成される。
L3	副配電盤 (Sub Switch Board (AFT)) 主照明系統用として110 Vに変圧された電気を船内に給電する。また、盤面にはアースモニタ及びアースランプがあり、漏電の監視を行う。
L4	ユニットクーラ (Unit Cooler) 制御室内の計装を保護するため、制御室内の温度を適切に保つ空調装置。 使用冷媒：R22 性能：15,000kcal/h
L5	グラフィックパネル (Graphic Panel) 本船のプラント構成図に機器運転表示灯、警告灯などを配し、プラントの運転状況を把握できる。
L6	可変ピッチプロペラ制御装置 (Controllable Pitch Propeller Control box) プロペラの翼角を遠隔操作（制御室、船橋及び機側操縦台）する場合に制御を行う。
L7	主発電機用ディーゼル機関 (Main Generator Engine) 主発電機を駆動する4サイクルディーゼル機関。 型式：YANMAR 6N21 AL-SN 定格出力：880 kW(1197 PS) Cyl. bore×stroke：210mm × 290mm
L8	3号発電機原動機潤滑油バイパスフィルタ (No.3 G/E Lube Oil Bypass Filter) 主発電機原動機のシステム油に含まれる不純物を、フィルターを用いて原動機運転中に取り除く。
L9	変圧器 (Aft Transformer) 主発電機で発生した440Vの電気を照明系統用として110Vに変圧する。
L10	3号主発電機 (No.3 Main Generator) 航海や生活などに必要な電力を発生する。 型式：大洋電気 FE45B-8 部分閉囲冷却防滴型ブラシレス交流発電機 定格出力：1000 kVA 連続、450V、3φ、60Hz、8極
L11	補助空気槽 (Auxiliary Air Reservoir) 主空気槽の空気がない場合、主発電機原動機を始動できるように圧縮空気を溜めておく。圧力が低下すれば、主空気槽との交通弁を開放し、充気している。 タンク容量：0.2 m ³ × 2.45 MPa
L12	非常用空気圧縮機 (Emergency Air Compressor) 電源喪失時に、主発電機原動機の始動用圧縮空気がない場合、人力で補助空気槽に空気を充気する。 性能：350 cc×2.45 MPa

L13	フィスタビライザ(左舷) (Fin Stabilizer (Port side)) 船体の両舷に張り出されたフィン（翼）の角度を変化させることにより、船体の動揺を抑制する。 格納式で、翼の張り出し・格納・翼角調整は油圧により行われる。 メーカ・型式：Brown Brothers & Co Ltd., VM 100 ±21.5 deg
L14	制御空気除湿装置 (Control Air Dryer) 空気式制御装置の誤作動を防ぐため、制御空気中の水分を除去する。 型式：メンブレン式 50 m ³ /hr×0.7 MPa
L15	カロリファイア及び温水循環ポンプ (Calorifier & Hot Water Circulating Pump) 加熱器、循環ポンプ、膨張タンクで構成され、蒸気で加熱した温水を居住区に供給する。 性能：2,000L/h 70℃ ポンプ型式：電動横型渦巻きポンプ 2 m ³ ×10 m
L16	エスケープトランク (Escape Trunk) 水密区画からの脱出経路。補機室から2nd deckへ抜け出すことができる。
L17	制御空気圧縮機 (Control Air Compressor) 制御、計測、操作など制御用に用いる圧縮空気を制御空気槽に送り込む。 圧縮機型式：V型2段圧縮空冷式 0.69 MPa×70m ³ /h
L18	制御空気槽 (Control Air Reservoir) 制御機器操作用の圧縮空気を溜めておく。 タンク容量：2 m ³ ×0.69 MPa
L19	2号主発電機 (No.2 Main Generator) 航海や生活などに必要な電力を発生する。 型式：大洋電気 FE45B-8 部分閉囲冷却防滴型ブラシレス交流発電機 定格出力：1000kVA 連続、450V、3φ、60Hz、8極
L20	清水圧力タンク及び清水ポンプ (Fresh Water Hydrophore Pressure Tank & Fresh Water Pump) 船内の雑用清水系統に圧縮空気で加圧した清水を溜めておくタンク。自動発停する清水ポンプにより補給される。 タンク容量：2.0 m ³ ポンプ型式：電動横型渦巻きポンプ 20 m ³ /h×50 m
L21	生活排水タンク及び生活排水ポンプ (Miscellaneous Drain Tank & Miscellaneous Drain Pump) 2nd deck乗組員居室の生活排水や乗組員チェンジングルームの洗面台からの汚水を一時的に蓄える。一定量溜まると、生活排水ポンプが自動始動し、船外へ排出する。 タンク容量：0.15 m ³ ポンプ型式：電動縦型渦巻きポンプ 3 m ³ /h×15 m
L22	空調用循環ポンプ (Air Conditioner Circulating Water Pump) 空調用チリングユニットで冷却された清水または空調用温水加熱器で加熱された温水をサーモタンク（ファンユニット）に送る。 ポンプ型式：電動縦型渦巻きポンプ 2 m ³ /h×10 m
L23	空調用温水加熱器 (Air Conditioner Hot Water Heater) 暖房用の循環水を蒸気で加熱し、温水にする。 型式：プレート式 HARISON CO. LTD、HSF16-FG3
L24	空調用循環水膨張タンク (Air Conditioner Circulating Water Expansion Tank) 暖房／冷房運転による循環水の膨張／収縮を吸収する。

L25	空調用チリングユニット (Chilling Unit for Air Conditioner (Fore)) 空調用循環水を冷媒 (R-22) を用いて冷却する。 圧縮機、膨張弁、蒸発器 (冷却装置) 及び凝縮器により構成される。 性能: 272×103 kcal/h
L26	フィスタビライザ (右舷) (Fin Stabilizer (Port side)) 船体の両舷に張り出されたフィン (翼) の角度を変化させることにより、船体の動揺を抑制する。 格納式で、翼の張り出し・格納・翼角調整は油圧により行われる。 メーカー・型式: Brown Brothers & Co Ltd., VM 100 ±21.5deg
L27	1号消防/雑用ポンプ (No.1 Fire/GS Pump) 消火用及び甲板送水用の海水を送水する。また、緊急時に補機室右舷側のビルジを直接船外に排出することができる。 ポンプ型式: 電動縦型渦巻きポンプ (真空ポンプ付) 90/65 m ³ ×25/75 m
L28	ビルジポンプ (Bilge Pump) 非常時 (機関室火災等) に非常発電機から給電され、機関室のビルジを船外排出する。補機室のダイレクトビルジ (左舷) 吸引管も接続されている。 ポンプ型式: 電動縦型渦巻きポンプ (真空ポンプ付) 80 m ³ /h×25 m
L29	サニタリ圧力タンク及びサニタリポンプ (Sanitary Hydrophore Pressure Tank & Sanitary Pump) 船内のサニタリ系統に圧縮空気に加圧した海水を溜めておくタンク。自動発停するサニタリポンプにより補給される。 タンク容量: 2.0 m ³ ポンプ型式: 電動縦型渦巻きポンプ 20 m ³ /h×50 m
L30	1号主発電機 (No.1 Main Generator) 航海や生活などに必要な電力を発生する。 型式: 大洋電気 FE45B-8 部分閉囲冷却防滴型ブラシレス交流発電機 定格出力: 1000kVA 連続、450V、3φ、60Hz、8極
L31	発電機原動機燃料油ドレンタンク (G/E Fuel Oil Drain Tank) 発電機原動機の燃料漏油タンクや発電機エアセパレーションチャンバからのドレン (不純物の少ない汚れた燃料油) を集めるタンク。DOセトリングタンクに送られ、再度利用される。 タンク容量: 0.1m ³
L32	1,2号主発電機原動機潤滑油バイパスフィルタ (No.1 & 2 G/E Lube Oil By-pass Filter) 主発電機原動機のシステム油に含まれる不純物を、フィルターを用いて原動機運転中に取り除く。
L33	ディーゼル油移送ポンプ (Diesel Oil Transfer Pump) 主として、No.5、6 DOタンクからDOセトリングタンクへ燃料油を移送する。またタンク間で相互に移送することもできる。 ポンプ型式: 電動横型ギヤポンプ 5 m ³ /h×0.29 MPa
L34	燃料油移送ポンプ (Fuel Oil Transfer Pump) 主として、No. 2、3、7 FOタンクからFOセトリングタンクへ燃料油を移送する。また、タンク間で相互に移送することもできる。 ポンプ型式: 電動縦型ギヤポンプ 30 m ³ /h×0.29 MPa
L35	煤分離タンク (Soot Separate Tank) 排ガスエコノマイザの水洗時に出た煤と水をこのタンクに溜め込み、水と煤を分離する。 タンク容量: 0.5 m ³

L36	2号消防／雑用ポンプ (No.2 Fire / GS pump) 消火用及び甲板送水用の海水を送水する。また、緊急時に機関室右舷側のビルジを直接船外に排出することができる。 ポンプ型式：電動縦型渦巻きポンプ（真空ポンプ付） 90/65 m ³ ×25/75 m
L37	消防／ビルジポンプ (Fire / Bilge Pump) 消火用及び甲板送水用の海水を送水する。また、緊急時に機関室右舷側と補機室のビルジを直接船外に排出することができる。 ポンプ型式：電動縦型渦巻きポンプ（真空ポンプ付） 90/65 m ³ ×25/75 m
L38	海洋生物付着防止装置 (Marine Growth Preventing System (Yunishel System)) 薬液タンク、制御盤、定量ポンプから構成されている。シーチェスト内に薬液（ユニシエル）を注入し、シーチェスト内壁や海水管系統にムラサキガイ、フジツボ等の海洋生物が付着することを防いでいる。
L39	エゼクタポンプ (Ejector Pump) 造水器内部を真空にするエゼクタに海水を供給するとともに造水器コンデンサを冷却する。また、その一部は給水（蒸発用海水）として使用する。 ポンプ型式：電動横型渦巻きポンプ 60 m ³ ×48 m
L40	シーチェスト（高位） (Sea Chest (High)) 船外から冷却に必要な海水を取り入れるための、船底に形成された開口部と開口部を包囲する箱体（船体内部に侵入した窪みに相当）。海水吸入弁、空気抜弁、藻除弁（海洋生物付着防止装置の薬剤注入ライン）が取り付けられている。
L41	シーチェスト（低位右舷） (Sea Chest (Low/Starboard)) 船外から冷却に必要な海水を取り入れるための、船底に形成された開口部と開口部を包囲する箱体（船体内部に侵入した窪みに相当）。海水吸入弁、空気抜弁、藻除弁（海洋生物付着防止装置の薬剤注入ライン）が取り付けられている。
L42	主空気槽 (Main Air Reservoir) 主空気圧縮機からの圧縮空気を、主機及び主発電機原動機の始動用空気として蓄える。また、この圧縮空気は減圧弁にて減圧され、雑用空気としても使用される。 タンク容量：4.2 m ³ ×2.45 MPa
L43	スラッジコレクター (Sludge Collector) 主機潤滑油2次ストレーナで逆洗された後のドレン中のスラッジを除去する。スラッジを除去された潤滑油は主機潤滑油サンプタンクへ戻る。
L44	補助送風機 (Auxiliary Blower) 主機開始動時や低負荷運転時に不足する燃焼用空気を、過給機に代わってシリンダ内に送り込む。 性能：1.63/3.15 m ³ /s×572/327 mmAq
L45	主冷却海水ポンプ (Main Cooling Sea Water Pump) セントラル清水冷却器に海水を送る。通常は1台の運転であるが、海水温度により運転台数を調整する。 ポンプ型式：電動縦型渦巻きポンプ 285 m ³ ×15 m
L46	主機潤滑油ポンプ (Main Engine Lube Oil Pump) 主機各部（各軸受、ピストン、過給機）に潤滑油を供給する。また、その一部はカム軸LOプースタポンプで加圧された後カム軸受等を潤滑する。 電動縦型ねじポンプ 205 m ³ /h×0.44 MPa

L47	セントラル冷却清水ポンプ (Central Cooling Fresh Water Pump) 船内の各冷却器に低温の冷却清水を送り、循環させる。温まった冷却清水はセントラル冷却清水冷却器にて所定の温度に冷却される。 この様な、海水の代わりに冷却清水を用いる冷却方式をセントラルクーリング方式という。 ポンプ型式：電動縦型渦巻きポンプ 190 m³×25 m
L48	掃気室ドレンタンク (Scavenging Box Drain Tank) 主機掃気室で発生したドレンを溜める。 タンク容量：0.3 m³
L49	潤滑油移送ポンプ (Lube Oil Transfer Pump) 主機及び主発電機原動機LOサンプタンクの潤滑油を、各セッティングタンクやストレージタンクに移送する。 ポンプ型式：電動横型ギアポンプ 5 m³/h×0.29 MPa
L50	油水分離器 (Oily Water Separator) ビルジ中に含まれる油分と水分を、分離板とフィルターを用いて分離する。油分はセパレートオイルタンクへ、水分は船外へ排出される。 性能：2.0 m³/h (15ppm)
L51	空気冷却器ケミカルクリーニングタンク及びクリーニングポンプ (Air cooler Chemical Cleaning Tank and Cleaning Pump) 主機空気冷却器の空気側を洗浄する際、洗浄液を溜めておく。専用のクリーニングポンプにて洗浄液を循環させる。 タンク容量：0.3 m³ ポンプ型式：電動横型渦巻きポンプ 1 m³/h×20 m
L52	セパレートオイルタンク (Separated Oil Tank) 油水分離器で分離された油分や各LOセッティング、プーリファイヤードタンクからの廃油を溜めておく。 タンク容量：9.0 m³
L53	廃油移送ポンプ (Waste Oil Transfer Pump) セパレートオイルタンクの廃油を廃油タンクへ移送する。また、陸上施設への陸揚げの際にも使用する。 ポンプ型式：横型モノポンプ 2 m³/h×0.39 MPa
L54	油水分離器用ビルジポンプ (Oily Water Separate Bilge Pump) 機関室・補機室のビルジウェイ、コファダムのビルジをビルジタンクへ移送する。また、ビルジタンクのビルジを油水分離器を通して船外に排出する。 ポンプ型式：電動横型往復動ポンプ 2 m³/h×0.25MPa
L55	蒸留水移送ポンプ (Distilled Water Make-up Pump) No.8蒸留水タンクからフィードフィルタタンクへ蒸留水を自動的に補給する。また、冷却清水膨張タンクへ送水することもできる。 ポンプ型式：電動横型渦巻きポンプ 2 m³/h×15 m
L56	中間軸受 (Intermediate Shaft Bearing) 中間軸を支える軸受で3箇所設置されている。軸受メタルにはホワイトメタルが使用される。
L57	可変ピッチプロペラ変節油ポンプ (C. P. P. Control Oil Pump) 可変ピッチプロペラを変節（翼角の変更）させるための作動油を供給する。 ポンプ型式：電動横型ギアポンプ 6 m³/h×12.3MPa

L58	中間軸 (Intermediate Shaft) 主機関と給油軸を連結する軸で、主機関の回転を給油軸に伝える。 軸径：φ400mm（軸受部φ405mm）
L59	エスケープトランク (Escape trunk) 水密区画からの脱出経路。軸室から4号空調機室へ抜け出すことができる。
L60	可変ピッチプロペラ変節油移送ポンプ (C. P. P. Control Oil Transfer Pump) 可変ピッチプロペラの変節に使用する作動油を、CPP LOサンプタンクからCPP変節油重力タンク（操舵機室）へ移送する。 ポンプ型式：電動横型ギアポンプ 1.32 m ³ /h×1.96MPa
L61	可変ピッチプロペラ変節油冷却器 (C. P. P. Control Oil Cooler) 可変ピッチプロペラの変節に使用する作動油を低温冷却清水で冷却する。 冷却器型式：シェルアンドチューブ型 4 m ²
L62	C. P. P. 油圧回路 (Hydraulic Module for C. P. P.) 可変ピッチプロペラの変節油を制御する電磁弁が装備されている。機側で直接変節させる操作も可能である。
L63	給油箱 (Oil Transfer Box) プロペラの翼角（ピッチ）を変える高圧油をハブ内のシリンダに供給するため、外部の油圧装置から回転している軸内に油を送り込む。
L64	給油軸 (Oil Transfer Shaft) 中間軸の一種で、中間軸とプロペラ軸とを連結している。 中空軸構造で内部に変節油管が組み込まれ、給油箱と連結している。
L65	船尾管潤滑油ポンプ (Stern Tube Lube Oil Pump) 船尾管の潤滑、冷却及びシールのための潤滑油を送る。 ポンプ型式：電動横型ギアポンプ 0.5 m ³ /h×0.15 MPa
L66	船尾管潤滑油冷却器 (Stern Tube Lube Oil Cooler) 船尾管を潤滑・冷却する潤滑油を低温冷却清水で冷却する。 冷却器型式：シェルアンドチューブ型 1m ²
L67	後部船尾管シールオイルタンク (Aft Stern Tube Seal Oil Tank) 船尾管後部軸封装置に重力によるヘッド圧を加える。船尾管潤滑油及び海水圧力より低く保たれているため、シール部が損傷するとシールオイルタンクレベルが上昇し異常が分かる。 タンク容量：0.03 m ³
L68	船尾管潤滑油流量検出タンク (Stern Tube Lube Oil Flow Measuring Tank) 船尾管軸受の潤滑油流量が規定量流れているか確認している。タンク内にはマグネット式のプロートスイッチが装備され、タンクレベルが低下（流量不足）になるとNon-Flow警報を発する。 タンク容量：0.015 m ³
L69	可変ピッチプロペラ変節油サンプタンク (C. P. P. Control Oil Sump Tank) 可変ピッチプロペラの変節に必要な作動油を蓄える。 タンク容量：4.0m ³
L70	船尾管潤滑油サンプタンク (Stern Tube Lube Oil Sump Tank) 船尾管の潤滑・冷却・シールに必要な潤滑油を蓄える。 タンク容量：4.0m ³
L71	最後部軸受（給油軸受） (Aftermost Bearing (Oil Transfer Shaft Bearing)) 最も船尾側に位置する軸受で、給油軸を支える。

L72	軸系接地装置 (Propeller Shaft Earthing Device) 軸系と船体を導体で結び、両者の電位差をなくすことによってプロペラ軸に発生する電氣的腐食を防ぐ。プロペラ軸と船体の電位差は電位差計に表示される。
L73	プロペラ軸 (Propeller Shaft) 軸系の最後部に位置し、先端には可変ピッチプロペラが装備されている。構造は中空軸となっており、内部には変節油管が組み込まれている。
L74	船尾管 (Stern Tube) プロペラ軸が船体を貫通し、船外に出る箇所に装備する筒状構造物。油潤滑式軸受、シーリング装置などが取り付けられる。 ○油潤滑式船尾管軸受 (Oil Lubricated Stern Tube Bearing) プロペラ軸を支え、前部軸受と後部軸受からなる。軸受支面材としてホワイต์メタルが使用され、滑油によって潤滑される。 前部軸受 L= 400mm 後部軸受 L=1150mm ○船尾管シーリング装置 (Stern Tube sealing Device) 軸系の船体貫通部 (=プロペラ軸と船尾管の隙間) から海水が船内に流入するのを防ぐとともに、船尾管内の油が船外や軸室内に流出するのを防ぐ。
L75	船尾管冷却水タンク (Stern Tube Cooling Water Tank) 船尾管は船尾構造を形成する清水タンク内に取り付けられており、発生した熱を吸収・冷却する。 タンク容量: 17.83 m ³
L76	燃料オーバーフロータンク (Fuel Oil Overflow Tank) 主機燃料油加熱器などの主機関係機器からの漏洩油、補助ボイラエアセパレーションチャンバからのドレン (不純物が比較的少ない汚れた燃料油) を集めるタンク。FOセトリングに送られ、再度使用される。 タンク容量: 7.83 m ³
L77	ビルジタンク (Bilge Tank) 機関室各所で発生したビルジ (油水混合物) を溜めておく。 タンク容量: 10.0 m ³
L78	飲料水滅菌装置 (Sterilizer (Chemical Injection Unit)) 飲料水系統に塩素イオンを注入して滅菌をする。
L79	飲料水圧力タンク及び飲料水ポンプ (Drinking Water Hydrophore Pressure Tank & Drinking Water Pump) 船内の飲料水系統に圧縮空気で加圧した飲料水を溜めておくタンク。自動発停する飲料水ポンプにより補給される。 タンク容量: 1.0 m ³ ポンプ型式: 電動縦型渦巻きポンプ 5 m ³ /h×50 m
L80	スタッフィングボックスLOドレンタンク (Stuffing box Lube Oil Drain Tank) スタッフィングボックスのドレンを溜める。 タンク容量: 0.6 m ³
L81	ターニングギア (Turning Gear) フライホールに連結し、電動機でゆっくり主機を回転させる装置。 ターニングギア嵌合中は、保護装置により主機が動かないよう作動する。

L82	推力軸受 (Thrust Bearing) 主機内部 (最後部) に設置され、プロペラで発生した推力を船体に伝える。
L83	主機燃料油供給ポンプ (Main Engine Fuel Oil Supply Pump) FO / DOサービスタンクからの燃料を主機燃料油循環ポンプに供給する。 ポンプ型式：電動横型ギアポンプ 2.5 m ³ /h×0.39 MPa
L84	主機燃料粘度調整装置 (Main Engine Fuel Oil Viscosity Controller) 主機で使用する燃料油が適正粘度になるように、燃料油加熱器への蒸気量を加減して燃料油の加熱温度を制御する。
L85	主機燃料油循環ポンプ (Main Engine Fuel Oil Circulating Pump) 主機燃料油供給ポンプから送られた燃料油をさらに加圧し、主機燃料噴射ポンプに供給する。加圧することでベーパーロックを防止し、低質燃料油の使用を可能にしている。余剰燃料油は主機燃料油ベントタンクを介して、ポンプの吸入側へ戻る。 ポンプ型式：電動横型ギアポンプ 6.5 m ³ /h×0.59MPa
L86	主機燃料油加熱器 (Fuel Oil Heater for Main Engine) 主機で使用する燃料油を適正粘度にするために蒸気で加熱する。加熱温度は粘度調節器で制御される。 処理量：6,500L/h
L87	主機潤滑油サンプタンク (Main Engine Lubricating Oil Sump Tank) 主機で使用されるシステム油を溜めておく。主機各部を潤滑したシステム油は再び戻ってくる。 タンク容量：15.0 m ³
L88	主機カム軸潤滑油ブースタポンプ (Main Engine Camshaft Booster Pump) カム軸受、各カム (燃料、排気) 及び排気弁作動用に潤滑油を供給する。 ポンプ型式：電動横型ギアポンプ 6.5 m ³ /h×0.20 MPa
L89	シーチェスト (低位左舷) (Sea chest (low / port)) 船外から冷却に必要な海水を取り入れるための、船底に形成された開口部と開口部を包囲する箱体 (船体内部に侵入した窪みに相当)。海水吸入弁、空気抜弁、藻除弁 (海洋生物付着防止装置の薬剤注入ライン) が取り付けられている。
L90	主 機 (Main Engine) プロペラを駆動し、推進力を得るための原動力となる2サイクルディーゼル機関。機関自身を逆転させる装置を内蔵している。 低速2サイクル自己逆転型ディーゼル機関 MITSUBISHI MAN B&W 6L50MC(MARK 5) 出力：10,500PS (7,722kW)
L91	潤滑油清浄機作動水タンク (Operating water tank for Lubricating Oil Purifiers) 潤滑油清浄機に封水、置換水及び弁シリンダ開閉用の作動水を供給する。 タンク容量：0.01 m ³
L92	清浄機潤滑油加熱器 (Lubricating Oil Heater for Purifier) 潤滑油清浄機で処理される潤滑油を適正粘度にするために蒸気で加熱する。 通油量：1,700 L/h
L93	潤滑油清浄機 (Lubricating Oil Purifier) 主機または発電機原動機で使用するシステム油中の水分とスラッジ分を取り除く。 処理量：1,700 L/h
L94	潤滑油スラッジタンク (Lube Oil Sludge Tank) LO清浄機からの水分やスラッジを溜めておく。 タンク容量：0.5 m ³

L95	清浄機燃料油加熱器 (Fuel Oil Heater for Purifier) 燃料油清浄機で処理される燃料油を適正粘度にするために蒸気で加熱する。 通油量：2,100 L/h
L96	燃料油清浄機 (Fuel Oil Purifier) FOセッティングタンクのDO中の水分とスラッジ分を取り除き、FOサービスタンクに送る。水分とスラッジ分はFOスラッジタンクへ定期的に排出される。 処理量：2,100 L/h
L97	燃料油スラッジタンク (Fuel Oil Sludge Tank) FO/DO清浄機からの水分やスラッジを溜めておく。 タンク容量：1.0 m ³
L98	FO / DO清浄機作動水タンク (Operating water tank for Fuel oil/Diesel oil Purifiers) 燃料油及びディーゼル油清浄機に封水、置換水及び弁シリンダ開閉用の作動水を供給する。 タンク容量：0.01 m ³
L99	ディーゼル油清浄機 (Diesel Oil Purifier) DOセッティングタンクのDO中の水分とスラッジ分を取り除き、DOサービスタンクに送る。水分とスラッジ分はFOスラッジタンクへ定期的に排出される。 処理量：1,500 L/h
M1	主機燃料2次ストレーナ (Main Engine Fuel Oil Secondary Filter) 主機に供給される燃料油中の不純物を取り除く。タイマにより定期的に、また出入口の差圧が大きくなった場合には自動的に逆洗する。逆洗時のドレンは燃料オーバーフロータンクへ流れる。
M2	圧力調整弁 (逃がし弁) (Pressure Regulate Valve) 主機燃料入口管と戻り管の間に設置され、負荷によって変動する燃料噴射ポンプ入口の燃料圧力を一定に保つ。 設定圧力：0.75 MPa
M3	バーナ制御盤 (Burner Control Panel) 補助ボイラの蒸気圧力を一定範囲 (0.5-0.63 MPa) 内に保つため、補助ボイラの点消火を自動的に制御する。その他、保護装置及び警報装置を備える。
M4	補助ボイラ燃料エアセパレートチャンバ (Air Separate Chamber for Boiler Fuel Oil) 燃料系統中の空気・ガスを連続的に除去する。また、バッファタンクとして余剰油戻りラインの脈動を吸収する。
M5	燃焼装置 (Combustion Equipment) 主及びパイロットバーナ、パイロットバーナポンプ、噴燃ポンプ、強圧送風機、燃料油加熱器及び制御装置で構成される。 型式・性能：三菱 MC-30D 重油専焼立型円筒水管式 0.59MPa×3,000kg/h ○主バーナ：HIGH/LOWバーナとON/OFFバーナの2本のバーナが一体となった構造。補助ボイラの蒸気圧力を検出し、自動制御される。 ○パイロットバーナ：主バーナに点火するためのバーナ。パイロットバーナポンプから送られた燃料油を用い、バーナが点火した後に自動的に消火する。 ○パイロットバーナポンプ：補助ボイラの蒸気圧力が低下すると自動的に運転を開始し、DOサービスタンクからの燃料油をパイロットバーナに送る。 ○強圧送風機：補助ボイラの蒸気圧力が低下すると自動的に運転を開始し、補助ボイラに燃焼用空気を供給する。また、炉内換気のためのプリパージやポストパージに使用される。 性能：56 m ³ /min×280 mmAq

M6	ボイラ噴燃ポンプ (Boiler Fuel Oil Burning Pump) ボイラ燃料供給ポンプからの燃料をさらに加圧し、補助ボイラのバーナに燃料油を送る。 ポンプ型式：電動横型ギアポンプ 0.34 m ³ ×2.26MPa
M7	パイロットバーナーポンプ (Pilot Burner Pump for Auxiliary Boiler) DOサービスタンクからのDOを、補助ボイラ点火用のパイロットバーナに供給する。 ポンプ型式：電動横型ねじポンプ 24 kg/h×14 m
M8	ボイラ燃料油加熱器 (Fuel Oil Heater for Auxiliary Boiler) 補助ボイラ用の燃料油を適正粘度まで加熱し、主バーナでの燃料油の噴霧を良好にしている。 性能：電気式 250 kg/h
M9	補助ボイラ (Auxiliary Boiler) 燃料油をバーナで燃焼させ、船内各所で使用する蒸気を発生する。 型式・性能：立型円筒水管式 0.6 MPa×3,000 kgf/h
M10	給水ポンプ (Feed Water Pump) 補助ボイラにフィードフィルタタンクから給水（蒸留水または雑用清水）を送るポンプ。 ポンプ型式：電動横型渦巻きポンプ 4 m ³ /h×100 m
M11	フィードフィルタタンク (Feed Filter Tank) 補助ボイラへの給水（復水及び補給水ライン）中に含まれる油分、不純物を取り除く。 タンク容量：1.0 m ³
M12	検油タンク (Inspection Tank) 各燃料油タンクの加熱蒸気ドレンに油分が混入しているかを調べる。オブザーベーションタンクとも呼ばれる。 タンク容量：0.2 m ³
M13	大気圧復水器 (Atmospheric Condenser) 各燃料油・潤滑油タンクの加熱、各加熱器の蒸気ドレンを、低温冷却清水で冷却し復水する。 型式・性能：シェルアンドチューブ型 14 m ² 3,000 kg/hr
M14	病室污水収集タンク (Hospital Sewage Collecting Tank) 病室で使用した污水を溜め、排出ポンプで船外に排出する。
M15	ボイラ水循環ポンプ (Boiler Water Circulating Pump) ボイラ水を排ガスエコノマイザ蒸発管に送り循環させる。 ポンプ型式：電動横型渦巻きポンプ 12 m ³ ×35 m
M16	オイルミスト検出器 (Oil Mist Detector) 主機関クランクケース内のオイルミスト濃度を監視し、高濃度になれば警報を発する。
M17	エンジンストア (Engine Store) 主機関をはじめ各機器の予備品及び消耗品を格納している。
M18	ジャケット冷却清水ポンプ (Jacket Cooling Fresh Water Pump) 主機シリンダジャケット、シリンダカバー及び排気弁に冷却清水を送り、冷却する。 ポンプ型式：電動縦型渦巻きポンプ 65 m ³ /h×30 m
M19	ジャケット冷却清水予熱器 (Pre-Heater for Jacket Cooling Fresh Water) 主機を暖機するため、ジャケット冷却清水を蒸気で加熱する。 型式・性能：シェルアンドチューブ型 1 m ²

M20	真空式造水装置 (Fresh Water Generator (Vacume Type)) 高真空下で海水を主機ジャケット冷却清水により蒸発させ、これを冷却水（エゼクタポンプからの海水）で冷却・凝縮させることにより蒸留水を精製する。蒸留水はNo.8蒸留水タンクまたは雑用清水タンクに送られる。 造水能力：20 ton/day
M21	スケール防止剤注入装置 (Chemical Injection Unit) 造水装置内（海水側）にスケールが付着するのを防止するための薬品を注入する装置。
M22	高温冷却清水温度調整弁 (Temperature Control Valve for High Temperature Cooling Fresh Water) 主機を冷却し高温となったジャケット冷却清水に低温冷却清水を混ぜ合わせ、主機出口温度を一定（80℃）に保つ。 型式：ダイヤフラム式三方弁
M23	主空気圧縮機 (Main Air Compressor) 主機関、主発電機原動機の始動用空気及び雑用空気として使用される圧縮空気を作り、主空気槽に送る。 型式・性能：縦型 3 段圧縮水冷式、2.45 MPa×120 m ³ /h
M24	セントラル清水冷却器 (Central Fresh Water Cooler) 船内の各熱交換器を冷却した低温冷却清水を、主冷却海水ポンプから供給される海水で冷却する。プレートの枚数を変えることで、冷却能力を加減することができる。 型式・能力：プレート式 163.1 m ² 3,000×10 ³ kcal/h
M25	主機潤滑油冷却器 (Main Engine Lube Oil Cooler) 主機関各部を潤滑・冷却した潤滑油を、低温冷却清水で冷却する。 型式・性能：シェルアンドチューブ式 255 m ² ×51.3/45 ℃
M26	低温冷却清水温度調整弁 (Temperature Control Valve for Low Temperature Cooling Fresh Water) セントラル冷却清水冷却器で冷却された温度の低い冷却水と、冷却器をバイパスした温度の高い冷却水を混ぜ合わせ、低温冷却清水の温度を一定（36℃）に保つ。 型式：ポジション付三方弁
M27	主機潤滑油澄ましタンク (Main Engine Lube Oil Settling Tank) 主機潤滑油サンプタンクから潤滑油を移送し、不純物を沈殿・分離させるタンク。タンク底部に加熱蒸気管が装備されている。 タンク容量：13 m ³
M28	主機潤滑油 2 次ストレーナ (Main Engine Lube Oil Secondary Filter) 1 次ストレーナで除去できなかった主機LO中の不純物を、より目の細かいフィルタで取り除く。タイマによる定期的な逆洗のほか、出入口の差圧が大きくなった場合も自動的に逆洗する。逆洗されたドレンは、下段のスラッジコレクタで不純物を除去した後サンプタンクに戻る。 メッシュ：50 μ
M29	シリンダ油貯蔵タンク (Cylinder Oil Storage Tank) 主機関で使用するシリンダ油（モービルガード540）を貯蔵する。シリンダ油計測タンクへシリンダ油を送るニューマチックポンプ（空気作動）が設置されている。 タンク容量：18 m ³
M30	発電機清浄潤滑油タンク (Generator Engine Purified Lube Oil Tank) 潤滑油清浄機で清浄された発電機潤滑油を貯蔵する。 タンク容量：1.0m ³
M31	発電機潤滑油澄ましタンク (Generator Engine Lube Oil Settling Tank) 発電機原動機サンプタンクから潤滑油を移送し、不純物を沈殿・分離させる。タンク底部に加熱蒸気管が装備されている。 タンク容量：1.0 m ³

M32	空気冷却器 (Air Cooler) 過給機で圧縮され温度が上がった燃焼用空気を低温冷却清水により冷却する。 空気の密度を上げ、充填効率を高める。 型式・性能：フィンチューブ型 503.2 m ²
M33	発電機潤滑油貯蔵タンク (Generator Engine Lube Oil Storage Tank) 主発電機原動機用潤滑油 (コスモマリン4010) の新油を貯蔵する。 タンク容量：2.5 m ³
M34	主機潤滑油貯蔵タンク (Main Engine Lube Oil Storage Tank) 主機システム油及び船尾管潤滑油 (モービルガード300) の新油を貯蔵する。 タンク容量：13 m ³
M35	DO澄ましタンク (Diesel Oil Settling Tank) 二重底タンク・ディーブタンクから移送されたDO中の不純物や水分を沈殿・分離させる。 タンク容量：3.0 m ³
M36	DO常用タンク (Diesel Oil Service Tank) 清浄機で清浄されたDOを蓄え、主発電機原動機及び補助ボイラのパイロットバーナに使用される。状況により、主機にも使用される。 タンク容量：3.0 m ³
M37	FO常用タンク (Fuel Oil Service Tank) 清浄機で清浄されたDOを蓄え、主機及び補助ボイラに使用される。タンク底部に加熱蒸気管が装備されている。 タンク容量：14 m ³
M38	FO澄ましタンク (Fuel Oil Settling Tank) 二重底タンクから移送されたDO中の不純物、水分を沈殿・分離させる。タンク底部に加熱蒸気管が装備されている。 タンク容量：14 m ³
M39	ボイラ燃料供給ポンプ (Boiler Fuel Oil Supply Pump) FOまたはDOサービスタンクからの燃料を、ボイラ噴燃ポンプに供給する。 ポンプ型式：電動横型ギアポンプ 0.5 m ³ /h×0.10 MPa
M40	主機燃料油ベントタンク (Main Engine Fuel Oil Venting Tank) 主機燃料中に含まれるガスを分離・排出する。タンク上部 (ガス出口) には自動空気抜き弁が装備されている。 タンク容量：0.02 m ³
M41	非常用操縦台 (Emergency Maneuvering Stand) 遠隔操縦装置の故障 (船橋及び制御室での操作ができない) 時、調速機を使用せず主機を機械的に操縦することができる。
M42	シリンダ注油器 (Cylinder Lubricator) シリンダ内部に6方向から潤滑油をタイミング良く注油する。主機関の回転と連動しているので、主機関の負荷に応じて自動的に注油量は変化する。ポンプマークの変動が激しい時には「増量モード」となる。
M43	主機排気弁研磨装置 (Main Engine Exhaust Valve Grinding Machine) 主機排気弁の弁及び弁座の摺り合わせを行う。2種類の砥石を使用し、一定角度 (35°) で削正する。
M44	燃料弁噴射テスト装置 (Fuel Valve Testing Device) 主機燃料噴射弁の開弁 (啓開) 圧力、噴射状態及び漏洩などを検査する。
M45	溶接床 (Welding Plate) 電気及びガス溶接作業用に設置された専用台。
M46	電気溶接機 (Electric Welder) 電気スパークで金属などを溶着させる。

M47	グラインダ (Grinder) 円盤状の砥石を高速回転させ、金属材料等を研削する。
M48	万能工作機 (Universal Machine) 1 台で旋盤、ボール盤、形削り盤、フライス盤の機能を備えている。
M49	ユニットクーラ (Unit Cooler) 工作室の作業環境を良好に保つ冷房機。 使用冷媒：R-22 性能：9,000 kcal/h
M50	ドリルマシン (ボール盤) (Drill Machine) ドリルを取り付けて、材料に穴をあける。
U1	ダンブ弁 (圧力調整弁) (Damping Valve (Pressure Control Valve)) 主に航海中、補助ボイラの蒸気圧力が上がり過ぎた場合、大気圧復水器に蒸気を逃がして圧力を下げる。 設定圧力：0.67 MPa
U2	減圧弁 (Reducing Valve) 補助ボイラで発生した蒸気を0.4MPaに減圧し、各加熱器やタンク加熱用の加熱蒸気、ギャレーなどでの雑用蒸気として使用する。
U3	補助ボイラ安全弁 (Safety Valve for Auxiliary Boiler) ボイラ上部に2個取り付けられ、蒸気圧力が上昇し過ぎた場合、ボイラ保護のため発生蒸気を大気中に逃がす。 噴気圧力：0.69MPa
U4	主機潤滑油温度調整弁 (Temperature Control Valve for Lube Oil of Main Engine) 潤滑油冷却器で冷やされた潤滑油とバイパスした温度の高い潤滑油を混ぜ合わせて、潤滑油の主機入口温度を一定 (45℃) に保つ。 型式：ポジション付三方弁
U5	主機シリンダカバ (予備品) 法定備品。 予備として、1 個以上備えなければならない。
U6	主機シリンダライナ (予備品) 法定備品。 予備として、1 個以上備えなければならない。
U7	主機ピストン (予備品) 法定備品。 予備として、1 個以上備えなければならない。
U8	過給機 (Turbocharger) 主機排気ガスで駆動される送風機。空気冷却器及びスカベンジングマニホールドを通して、シリンダ内に燃焼用空気 (掃気) を供給する。 型式・性能：NA48/S 0.248 MPa 静圧過給方式
U9	過給機潤滑油重カタンク (Turbocharger Lube Oil Gravity Tank) 航海中に電源喪失 (ブラックアウト) した場合、高速で回転する過給機軸受に最低限の潤滑油を重力により供給し、焼き付きを防止する。 タンク容量：0.07 m ³
U10	可変ピッチプロペラ変節油重カタンク (C. P. P. Control Oil Gravity Tank) ヘッド圧をかけることで可変ピッチプロペラの作動油圧力を海水圧力より高く保ち、海水の浸入を防止する。油面が下がると変節油移送ポンプにより自動的に送油される。 タンク容量：0.1 m ³
B1	シリンダオイル計量タンク (Main Engine Cylinder oil measuring Tank) シリンダ油を内部注油器へ供給する。シリンダオイルは、シリンダオイル貯蔵タンクからニューマチックポンプ (空気作動式) で定期的に補給する。

B2	排ガスエコノマイザ (Exhaust Gas Economizer) ボイラ水循環ポンプで送られたボイラ水を主機関の排気ガスを利用して暖め、蒸気を発生させる。飽和状態となったボイラ水は補助ボイラに戻った後に汽水分離される。 性能：0.59 MPa×1,600 kgf/h
B3	フィンスタビライザオイル重力タンク (Fin Stabilizer Lube Oil Gravity Tank) ヘッド圧をかけることでクラックス内の潤滑油圧力を常に海水圧力より高く保ち、海水の浸入を防止する。 タンク容量：0.12 m ³
B4	発電機排気ガス消音器 (Generator Engine Exhaust Gas Silencer) 排気管を伝わる騒音に、それを打ち消す音源を重ねることで消音する装置。
B5	冷却清水膨張タンク (Expansion Tank for Cooling Fresh Water) 冷却清水の熱膨張の吸収、系統内の連続的なエア抜き及び冷却清水系統内にヘッド圧を与えキャビテーションを防止する。また、冷却清水の補給及び防錆剤の投入を行う。 タンク容量：1.0 m ³
B6	スートブローア (Soot Blower) 排ガスエコノマイザ加熱管に付着した煤を、蒸気を吹き付けて除去する。煤の堆積による熱伝導低下、加熱管の焼損（スートファイヤ）等を予防する。 性能：0.49 MPa×1,540 kgf/h
B7	廃油タンク (Waste Oil Tank) セパレートオイルタンクからの廃油を貯め、廃油焼却炉で燃焼しやすいように加熱する。 タンク容量：1.1 m ³
B8	廃油焼却炉 (Incinerator) 廃油タンクからの廃油を焼却する。 性能：500,000 kcal/h
B9	非常発電機 (Emergency Generator) 主発電機が使用不能となった場合に、必要最低限の主要機器への電力を供給する。 性能：140 kW×1,800 min ⁻¹
B10	非常用配電盤 (Emergency Switch Board) 非常発電機で発生した電気を、最低限必要な機器に給電するために、回路の開閉操作や監視、制御及び保護を行う。同期盤、発電機盤、給電盤から構成される。
B11	高膨張泡消火装置 (High Expansion Foam Fire Extinguishing System) 機関室火災の際に、機関室・補機室各所に設置された泡発生器から泡が放射されて消火する。
B12	陸上電源接続箱 (Shore Connection Box) 入渠時など、陸上施設から電源を取り込む際に使用する。検相計が装備されている。
B13	局所消火装置 (Hyper Mist Fixed Local Application Fire Fighting System) 高圧ポンプ、遠隔操作弁、スプレーノズル、操作盤及び清水タンクから構成され、スプレーノズルから放出される高圧噴霧水によって、機関室内の火災発生区域の消火を行う。